

ビジョン

多様性を受け入れられ、顔が見える安心
安全な地域コミュニティ

現状

- ・地域コミュニティが多様性を受け入れられていない
→ 外国人,障がい者,集合住宅(アパート)住民などへの対応が不十分
- ・地域住民に町会,自治会,町内会(以下、自治会)の必要性が理解されていない
→ 「会費ばかりがとられメリットが無い」というイメージ
※近年増加するマンションや宅地開発への新規編入世帯に多い
- ・既存会員の脱会や高齢化などによる会員減少
でも！ふじみ野市には約50の自治会、52のボランティア団体、23のNPO法人
→ 意外にいっぱいある！ 既存団体数の充実と感覚の乖離は何故起こるのか？

課題

☆市民に地域コミュニティの活動が見えていない！

1

事例調査

⇒情報交流から活性化

◎藤沢市市民電子会議室（こみゅっとフジサワ）

<http://commufuji.net/> <市民からの質問・要望の受け入れ>

- ・藤沢のまちをより良くしていくためのQ&Aサイト
- ・ちょっとした悩みから大きな困り事まで、藤沢に関する事に対応
- ・専門性を持った「オブザーバ」がサポート
- ・カテゴリに分けられ、過去のQ&Aも公開
- ・イベントの詳細がわかるイベントカレンダー

◎東大阪市市民活動情報サイト（スクラムは〜と）

<http://higashiosaka.genki365.net/> <地域コミュニティの活動を広報>

- ・東大阪市内で行われる市民活動に関する情報の発信サイト
- ・イベント・お知らせ、募集の掲示板
- ・各種団体活動の紹介（団体のプロフィールや活動報告）

2

⇒お互いを知るためにみんなが情報発信

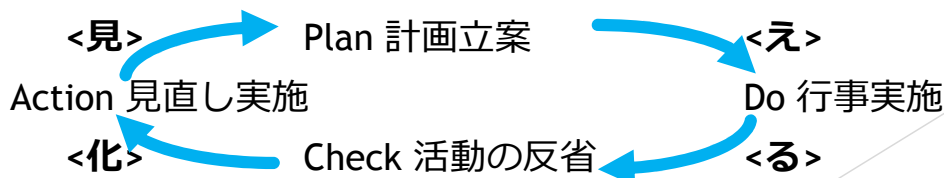
- ◎地域コミュニティに参加していない人
 - 「こうしてほしい」「こうしたい」という**情報を発信**
 - 興味を感じたらまず参加
- ◎地域コミュニティに参加している人
 - 参加した面白さ・メリットを**情報発信**
 - やって欲しい事や改善点に気が付いたら発言（**=情報発信**）
- ◎地域コミュニティを運営している人
 - 参加していない人にも伝わる**情報発信**
 - 事例や困っている事を組織・団体間で**情報共有**
 - 前例踏襲ではなく、ライフスタイルの変化に応じて計画修正

3

⇒みんなで地域コミュニティの見える化

- ①行政がネット上に情報交流の場(コミュニティサイト)を設置
 - 公式性・持続性の担保として市のHP内もしくはNPO等に事業委託
- ②情報交流の場の内容(コンテンツ)・機能例
 - 1、行政と市民がフラットに議論できる電子会議室
 - 2、ふじみ野市に関するYahoo智恵袋のようなQ&A
 - 3、各自治会の情報発信(行事予定・参加募集・実施報告)
 - 4、NPO紹介(他のNPOや自治会をサポートできる得意分野など)
 - 5、外国人・障がい者・情報弱者ための自動翻訳や配慮

③各団体が活動(PDCA)サイクルで情報発信し見える化



4